

# PCC NEWS & LETTER

日本赤十字社医療センター緩和ケアカンファレンス

vol.06 2019.1.



地域の  
緩和ケア  
紹介

## 2019年1月9日第145回PCC開催

今回は、街の内科外科クリニック（目黒区柿木坂）の新谷 隆先生、LE在宅訪問看護ステーションの花口 勇人先生にお越しいただき、施設のご紹介をいただきました。街の内科外科クリニックは、定期的な訪問診療に加え、緊急往診にも対応されている他、多くの専門家と連携して、ご家族も含めた診療を心がけておられるそうです。また、在宅での輸血に対応できるよう体制を整備され、投与中看護師がVSをチェックしたり、話を聴いたりする対応もされているそうです。ご病状に合わせつつ、より良い診療を行っていきたくとお話しくれました。

LE在宅訪問看護ステーションでは、訪問看護師とリハビリ専門職（PT・OT・STなど）が各100名所属されており、その介入を通して『親を呼びたいまちづくり』を展開しているそうです。24時間365日の訪問看護体制をとっておられますが、日中に十分なケアや患者・家族への指導・教育を行うことで、夜間呼ばなくても大丈夫な状態を作ることが重要とお話しいただきました。



新谷先生 倉持先生 花口先生 高橋先生

### PCU便り



#### 【クリスマス会】

12月の恒例は、クリスマス会を開催しました。栄養科がかわいいカップケーキを用意してくれ、楽しいひと時となりました。

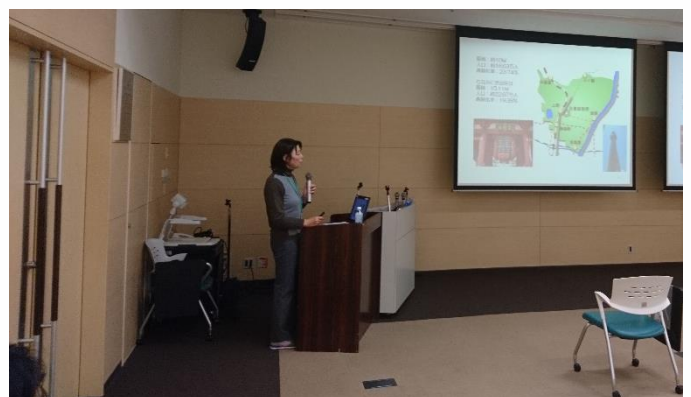
## 第146回緩和ケアカンファレンス

2019年3月13日 19:00~20:45開催予定

第146回PCC教育講演は「在宅医療を支える歯科との連携の在り方」講師は、渋谷区口腔保健支援センタープラザ歯科診療所の村田志乃先生です。歯科連携についてのお話をいただきます。地域で暮らす人をどう支えていけるのか、私たち一人ひとりができることを考える機会になると思います。なお、この会は、日本医師会生涯教育カリキュラムと緩和薬物療法認定薬剤師単位の取得対象になります。ふるってご参加ください。

訪問看護師としての経験や、診療所看護師の立場から、日常実践に結びつく具体的なお話しをいただきました。ご所属施設がある熱海市は、高齢化率が45%を超えており、三十年先の日本と言われているそうです。急性期病院も少なく、退院前カンファレンスに赴くと、片道30km、移動込みで1回3時間、午後半日が終わるそうです。訪問看護師は、一人での訪問が常ですが、そこには、適切な知識と技術、連携や調整の力、そして何よりコミュニケーションの力が必要です。退院後、患者・家族と直接話すと、希望が変化していることもあるなかで、ご本人の思いを伝えたい、届けたいと、病院や在宅のチーム間で共有されているそう

です。訪問看護については、夜間や次の訪問までの間に起こることを予測し、看護師が到着するまでに、患者や家族が、自分たちで対処を出来るよう指導・教育していく事も話されました。現在のご勤務中の診療所内にはトイレの横から車いすで入れる広さのシャワールーム作っており、路上生活者や褥瘡などの創傷処置、予定していた週1度のデイケアでの入浴を逃した高齢者など、具体的な活用場面をご紹介くださいました。シャワーを勧める声のかけ方なども、これまで培われてきたコミュニケーション能力の片鱗が垣間見られるお話でした。地域でも、病院でも、一人一人の力を引き出していく大切さを感じました。



倉持先生のご講演

教育講演 「最後まで在宅療養を支えるこれからの訪問看護」 さくら醫院 緩和ケア認定看護師 倉持雅代 先生

#### 編集後記

新しい年になりました。平成も残りわずかとなりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。お蔭さまで、昨年からの発行を開始したPCC News Letterも第6号を迎えることが出来ました。この1年、様々なプログラムを開催し、皆様と一緒に学べたことを大変うれしく思います。今後も皆様と共に地域の方々を支えられるよう、学んでいきたいと思ひます。

